

Henry S. Shryock, Jacob S. Siegel and Associates,
The Methods and Materials of Demography,
Volumes 1 & 2, Second Printing (rev.), Bureau of
the Census, U. S. Department of Commerce, 1973

本書は人口統計分析の方法と材料を集大成した内容であり、第1巻・2巻の本文888頁に付録および詳細目次、索引などを加えて総量960頁に及ぶ大冊である。アメリカセンサス局のスタッフを中心に人口分析の専門家を動員し、本文内容は5部25章の構成(付録5つのうち1つは人口予測の一部で1章に近い)、各章に文献目録がある。おそらくデモグラフィのテキストとして、現状でもっとも整ったものといえよう。本文の配列と頁数は第1部人口統計分析のデータ(90頁)、第2部人口の規模と分布(76頁)、第3部人口構成(184頁)、第4部人口動態(302頁)、第5部分析技術および人口推計(付録Aを加えて188頁)となっており、各部の内容は以下のとおりである。

第1部は人口分析のための基本的なデータとなる人口センサスの制度や実施のプロセス、動態統計の登録制度について紹介し、各国のセンサス調査票や動態登録証明書も収めている。各種の人口予測の現状にもふれている。

第2部の人口規模では総人口の種類、正確さ、調査洩れなどを考え、人口分布については、行政区域のほか経済地域、大都市地域、都市連合地域などの実態地域、さらに統計調査区域としてアメリカの標準大都市地域を紹介し、分析課題としては人口密度、人口重心、人口ポテンシャルなどを取りあげている。都市・農村区分についても一章を設け、日本のD I Dを含めて郊外地域、農村人口のとらえ方、人口規模別、それらを計測するローレンツ曲線、Rank-size rule が示される。

第3部の人口構成は、男女、年齢、人種、配偶関係・家族、教育、経済活動について6章を設けている。各章ともデータの評価と分析方法をとりあげ、とくに年齢構成は選好指数、修正方法、年齢構成係数、人口ピラミッド、安定人口などが詳しく紹介される。経済構成については、経済活動の区分、労働力調査、労働力率、所得などを取りあげている。

第4部の人口動態は総量の3分の1をしめ、その各章は人口変化、死亡、生命表、出生力測定一動態による一、出生力測定一調査による一、再生産力、婚姻・離婚、国際移動、国内移動を含んでいる。このうち、人口変化ではロジスティック曲線を含めて各種変化曲線が示され、死亡と生命表では年齢・死因・職業別死亡、乳児死亡、修正方法、生命表の考え方と計算方法が説明される。出生力と再生産力については、各種の出生力測定方法、コーホート分析、バリティ分析、child-woman ratio、累積出生数、各種再生産率、安定人口による動態率などが取りあげられる。国内人口移動では移動率の計算方法、生残率法による純移動率の計算、出生地・居住期間別移動などが示される。

第5部は推計方法を中心とするが、はじめの章で標本抽出、補間方法、コーホート分析などいくつかの一般的な分析技術を紹介し、そのあとセンサス間およびセンサス後人口推計、全国および地域の将来人口予測の諸方法を説明している。さらに一章を設けて、統計不備の地域に対する推計方法として、モデル生命表の利用、安定人口による動態率推計が紹介される。また付録Aでは、都市・農村人口、世帯、教育人口、労働力人口の予測方法を取りあげている。

以上、本書の内容は老成であるが、それぞれの課題が言葉の定義、データの評価と修正方法、分析方法とその具体的事例などにわたって詳細に取りあげられており、したがっておそらくどのような人口分析を試みる場合にも、つねに参照に値するテキストといえよう。

(濱 英彦)